

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072200443	
法人名	医療法人 緑風会	
事業所名	グループホーム 御姫尊	
所在地	長野県東御市祢津337-2	
自己評価作成日	平成24年12月10日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部	
所在地	長野県松本市巾上13-6	
訪問調査日	平成25年1月31日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは1事業所2ユニットで運営されている。周囲は田園風景の中に同形式の建物が2棟建立され、遠く立科山・八ヶ岳連峰を望み落ち着いた雰囲気がかもし出している。建物内は全てバリアフリーで中心にホール・居間・台所(IH)が設けられており、囲むように1人1室の居室が設備されており、利用者はゆったり日々の生活おこなっており、家族・関係者が訪問しても十分な空間が保持できプライバシーが保たれている。外界との接触については食事会、歌舞伎見学、アニマルセラピー等、又、コミニティー(地域交流)については認知症の理解、啓蒙運動として区民、民生委員、隣組、ボランティア、小学校の生徒、保育園等と交流し、活発化をなしている。家族等の交流についてはこの施設内の日々の様子を写真に収めアルバムにして利用者の家族へ年2回配布をして家族に好評を得ている。イベントを開催して家族同士の悩み・思いの提供の場として活用し、職員との交流をさらに深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人 緑風会が経営する2ユニットのグループホームは、二つの建物で玄関が別々である。法人が運営する診療所が同敷地内にあり、医療面での充実が利用者、家族の安心した環境となっている。通所介護も行っているために一緒に通所の方が過ごし帰宅時に一緒に外出する方もいる。ホームの周りには畑があり、季節には野菜を積み食卓に加えられ、季節感を楽しむ。また地域の方やボランティアも多く、家族も日常的に良く訪問され、正月には餅つきを行い、獅子舞もくる。地域の歌舞伎への参加や行事参加も地区の協力を得て行い、地域の一員として生活されている。ホーム内ではいつも音楽がかけられており、自主的に体を動かす工夫としてラジオ体操を日に4回かけ、その後は歩行訓練をするなど、活動的生活の工夫も行っている。今後、利用者が高齢化してくる中で、重度化した利用者を住み慣れたこの家で安心して生活していただく方法を検討している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(御姫尊)					
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらい			2. 家族の2/3くらい
		3. 利用者の1/3くらい			3. 家族の1/3くらい
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらい			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらい			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらい			2. 職員の2/3くらい
		3. 利用者の1/3くらい			3. 職員の1/3くらい
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらい			2. 利用者の2/3くらい
		3. 利用者の1/3くらい			3. 利用者の1/3くらい
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらい			2. 家族等の2/3くらい
		3. 利用者の1/3くらい			3. 家族等の1/3くらい
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらい			
		3. 利用者の1/3くらい			
		4. ほとんどいない			

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名( )			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>実践につなげている。</p> <p>新入職員には必ずカンファレンスの中で地域密着型サービスの意義、特性、理念を説明して理解を深めている。月2回のGH会議、カンファレンスの中でも基本方針等確認をしている。</p>	<p>ホームの理念は、外部の方がいつでも見ることができる廊下に掲示されている。職員は地域密着型の意義を十分理解しケアにあたっている様子が伺える。</p>	<p>地域密着型の理念は職員が共有し、支援することはもとより、家族、地域へも地域密着型サービスの理念を発信し、高齢化する利用者のわが家として過ごす支援の十分な理解に努めたい。</p>
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>日常的に交流している。</p> <p>地域においては区民となり、地域の行事に招待される、区民による歌舞伎・小学校の音楽会・運動会・幼稚園からの出張おみこし・ボランティアによる餅つき、お正月の獅子舞等の参加・交流を図っている。</p>	<p>地域行事にも招待され交流も多い。幼稚園、小学校の運動会参加、地域の歌舞伎にも地域の人の協力を得て参加し楽しみがある。正月にはボランティアによる餅つき、獅子舞等地域とのつながりが多い。訪問時にも、歌のボランティアと共にとっても生き生きとした表情で楽しんでいる。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>活かしている。</p> <p>区の区長・民生委員・等に運営に関して会議を開催して、現状報告・問題点など提起して互いに意見交換をして、支援などして頂いている。区民の隣組の方が抵抗なく訪ねてくれる。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>活かしている。(消防署・警察了解された)</p> <p>運営推進会議は行政(福祉課・地域包括センター)・区長・民生委員・家族等の参加の中で会議を開催して現状分析・課題など報告して適切なアドバイスを頂き実践に活かしている。</p>	<p>運営推進会議は、年2回、家族会議が年2回の開催である。運営推進会議では区長から、地域を巻き込んだ防災訓練の必要性の提案、小学校の先生からも子供との交流を増やす提案等出される。地域、家族代表、行政の代表が出席され活発な意見交換ができる。</p>	<p>運営推進会議は、ホームを理解していただく良い機会でもあり、多くの家族が集まる家族会の利用も運営推進会議の一環として具体的な意見を聞く場所としていきたい。今後ホームが目指す方向を理解して頂き、更なるホームの発展のためにも開催の増加に期待したい。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>協力関係を築くように取り組んでいる。</p> <p>申請書についても郵送に頼らず窓口にいき、コミュニケーションを図り、又、包括支援センターから利用者の相談を受け、支援の方法を模索し可能な限り、対応している。(入所、通所等)</p>	<p>通所利用者の困難なケースの情報の共有等も行い、関係性ができている。随時、相談できる体制があり、運営推進会議での助言や日々の相談、連携の取り組みができている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>取り組んでいる。</p> <p>ある病院で車椅子に拘束されていた利用者を目が離せないとの理由で当施設でその利用者の入所受け入れをした、利用者の尊厳を大切にしておき、入所日より身体拘束をしないようにした。</p>	<p>毎年、法人として全体研修があり、職員は拘束の理解がある。具体的に職員が車いす体験を行い、安全したケア、利用者の気持ちの理解に努め、拘束につながらない支援をしている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>防止に努めている。</p> <p>肉体的虐待には週2回の入浴において隅々まで点検して、言語的虐待については日常職員が各々が利用者の尊厳を理解しており、そのようなことはない。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>活用できるよう支援している。</p> <p>この地域は社協が窓口となっており、独居のお年寄りが将来財産上の問題が浮上、予想される場合には相談をしており、又、本人が希望した場合には会計士などにも関わってもらっている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>理解・納得を図っている。</p> <p>入所時・解約・改定等については十分説明をして、特に金銭的なことについてはトラブルを回避するため、利用者家族から承諾書を頂いている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営に反映させている。</p> <p>1に運営推進会議に利用者家族の参加、2に家族参加による夏祭り・収穫祭を開催して職員・家族同士の話し合いの場を設けている。その中で家族の意見をくみ上げている。</p>	<p>利用者の家族は、毎週訪問する方、2-3日置きに来る方等頻繁に見えるために、来所時に日々話しを聞き、報告をしている。家族会も年2回あり多くの家族が訪れ、意見を聞く良い機会になっている。事業所だよりを年2-3回は作成し利用者の様子の報告書と共にお知らせする。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>反映させている。</p> <p>代表者は月1回全体会議を開催し、職場での要望・運営に関してはその都度理事長との交換ノートで連絡して検討したり、承諾を求めている。職場のカンファレンスは月、2回開催し必要時はその都度開催する。</p>	<p>法人として、職員へのアンケートを行い、意見等聞く仕組みがある。毎月、全体会議の開催を行い、理事長と運営、要望の話し合いがなされる。日々の意見、要望はノートの利用でいつでも意見を述べ話し合いをする仕組みがある。年2回の面談もあり日々の中での意見が言いやすい環境ができています。</p>	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<b>就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。 評価表(自己評価・チーフ評価)を年2回実施しており、給与・賞与に反映し、労働条件については職場環境・個人の休暇の希望を取り入れ職員の要望に応えている。		
13		<b>職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	トレーニングしていくことを進めている。 施設内のチームケアの中の利用者カンファレンスの中で個人の介護ケアを把握し、今年度は認知症介護実践研修に2名参加、管理者研修に1名参加して伝達講習をカンファレンスの中で実施した。		
14		<b>同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組みをしている。 市内介護事業者が10/29事業所視察研修に30名余来所され、GHの入所・通所の基準・利用者状況等説明して、会議を通じて理解を深めていただいた。又地域のケアマネジャーが来所して利便を図っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。 家族・本人から可能な限り、今までの生活歴・生育歴等を表出し、要望に添うようケアに活かし、施設で楽しく、穏やかに生活できる基礎資料を確保している。マニュアルに添って要望項目ごとに整理している。		
16		<b>初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関係づくりに努めている。 入所される前にこの施設に利用者本人・家族等に来所して頂き時には昼食を召し上がっていただき、施設の特質・環境・なじみ等を経験する機会を設けている。上記のマニュアルで家族の困っている問題を表出している。		
17		<b>初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。 上記のマニュアルにて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係を築いている。 職員と利用者本人はそれぞれのADLに応じて素材作り・お茶配り・配膳・食器洗い物・洗濯者の仕分け・たたみ等一緒に行っており、和やかな関係をきずいている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係を築いている。 家族に施設の生活を写真アルバムにして近況も身体的・健康面・生活面、に分けて文章にて郵送を年2回現況をお知らせ、又、家族の参加するイベントを年2回実施して家族・本人・職員の交流の場としている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援に努めている。 なじみの人・家族等が何時、施設に来ても365日受け入れをしている。命日には家人が連れにきている。親戚・家族・兄弟も施設に訪れ懇親を深めている。	家族と共に外出する人は2-3人。外泊の方もおられるが、日々過ごすこのホームが自分の安心できる居場所である。命日に出掛ける方、近くの床屋に職員がお連れしひげそりに行かれ会話を楽しむ利用者もいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支援に努めている。 歌唱指導のボランティアが来たりした時は利用者全員が参加するように声掛けをしている。又、レクなどは利用者全員が楽しく出来るような種目を選んで(卓上ボウル遊び)楽しんでいる。脳トレも全員参加。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援に努めている。 退所してもこの施設に寄って、今やりがいのある歌のレッスンをしているとか、どのような方法がよいかなど、相談を受けたりして、経過を見守って支援に努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。 入所時に家族・本人の希望・要望をお聴きして、記録表に記入している。又、嫌な事(困った事、嫌いな食べ物、身体的な事、不得意な事、生きてきて嫌な事)等も把握して本人の納得性に努めている。	自分の思いを訴えられる方も沢山おられるが、本人が決定できるように声かけに努めている。職員は日々様子を話をし、利用者が何をしたいのが困難に思っているのが話し合う。個別に話し合う時間もトイレ誘導時、テレビの時間等利用し一人ひとりの思いの把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。 一人ひとりの生活歴やなじみの暮らし方は同上 これまでのサービス利用の経過は在宅からの場合はケアマネに施設に訪問してもらい、他院だと直接看護師との申し送り、サマリー等で把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。 一人ひとりの業務日誌、日課記録表、経過記録表、により現状の把握をしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成させている。 本人・家族からは入所時希望・要望・その他をきいてプランに反映し、夜勤者・担当者から、利用者の課題を報告してもらい、GH会議において皆で解決策の方向性を見出している、早急な課題はその都度勤務者で会議をしている。	介護計画、作成されている。日々の変化に対応できるようにの記録を作成し、毎日主治医に報告しケアにつなげている。家族の意見は、来所時に確認しその都度聞いている。プランの見直しは、毎月の会議で話し合い計画の見直しを行っている。	介護計画は、本人がよりよく暮らすための課題、ケアの在り方について気づきや意見、アイデアを出し合い話し合いの結果をもとに作成する。アセスメント、モニタリングを繰り返し、臨機応変の見直しにつなげる。毎月新鮮な目で見ていくことが望ましく見直し期間、記録の見直しに期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。 NO25に同じ。 更に徹底するため、申し送りノートに必要事項を記入して情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。 家族・利用者様の相談に応じ、要望、要求に対応するように時には医療と相談して専門標榜科の紹介手続きを申請したり、利用者が外での食事要求に応じたりしている。又、料理にもおやきなど工夫している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。 利用者が作った「エコたわし」を近くの小学校・保育園に職員と一緒に配布して喜ばれ、利用者の励みにもなっていて、子供達が訪ねて来たり、運動会・音楽会等招待され交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>支援している。</p> <p>主治医の受診は診療所で敷地内にあり容易に診てもらえる。定期以外の臨時の受診は家族に容態・状況を説明して納得を得られている。受診表を提出して即対応されている。他医院の受診もある。</p>	<p>かかりつけ医は、敷地内にある診療所の医師が投薬日に合わせて往診してくれる。病状変化があるときは、受診票を診療所に提出し、医師から指示を頂く。家族への報告もその都度行っている。透析の利用者も以前は利用しており、必要な専門医への受診も行われている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>支援している。</p> <p>本人の訴え、職員が気づいた医療上の状態を看護師、訪問看護師と連携をとり、医師のオーダーの下で点滴・処置を施行している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>関係づくりを行っている。</p> <p>病院に入院した際にはサマリーにてこちらの情報を提供して、入院中においてはこちらから病院に訪問して医療スタッフと退院プランを話し合い早期に退院できるよう相談をしている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>取り組んでいる。</p> <p>入所時に急変した場合、重度化した場合この施設で可能な医療、介護等の内容を十分説明して理解を得ている。他院に移る場合などは家族・本人に希望を聞き、家族が選んで頂くようにしている。</p>	<p>重度化に対し、同敷地内での医療の充実もあり、家族と相談し入院をしたり、他施設に転院する等家族、利用者を中心に良い生活の選択を行ってきた。今後、高齢化が進んでくる中、重度化する利用者への住み慣れたこの家で過ごす支援も理事長を含め検討していく予定である。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>実践力を身に付けている。</p> <p>入所時に利用者の疾患を全ての職員が性質、特徴、経過等を理解するようにして、カンファレンスにおいても特に気をつける疾患(循環器、嚔下注意)、蘇生方法等を話し合い実践力を高めている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>協力体制を築いている。</p> <p>スプリンクラー、火災通報装置(消防署へ直通)が設置されており、防災訓練を5/24、7/26、年2回行っており、区の役員、区の消防団も参加している。消防署との通報も確認した。</p>	<p>年2回は、避難訓練、防災訓練を行っている。屋外に全員を避難した。地域の消防団、区の役員も参加している。夜間想定した通報訓練も行った。スプリンクラー、火災通報システムの設置はなされている。</p>	<p>地域住民の協力体制や地域協定の確認を行い、災害時は、地域住民との相互の体制作りを行うことで災害時の安心した体制作りを期待したい。</p>



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応をしている。 入所時に利用者本人の成育歴・生活歴・人格・誇りを家族・本人より聞き取るマニュアルがあり、それを基本に日々介護に接している。	プライバシーの確保、一人ひとりの尊重については、毎年法人が行う研修会に全員参加している。日々の生活でなじみの関係から慣れ合いや一人ひとりの尊厳に配慮した対応にお互いが注意し対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。 いくつかかのイベント・ボランティアの訪問・地域の行事にも本人の意思により、参加させている。又食事に関しても外にお連れして本人の好きな食べ物を選択して食堂・回転すしで昼食を召し上がっている。計8回		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望にそって支援している。 体操1日4回・施設内歩行訓練3回、本人のペースに合わせた時間をとっている。食事の摂取時間についても本人のペースに合わせてゆったりとした時間配分を設けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。 家族から着替え、衣服(下着も含む)等お預かりしているので週2回、入浴後本人と相談しながら更衣をしている。3ヶ月に1度美容師が訪問して利用者の要望に応えている。季節ごとに更衣を促がしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。それぞれの能力に応じて役割分担して食材を準備する方、お茶を配る方、食後食器を集める方、食器を拭く方等それぞれ創意工夫して和やかにやっている。	食事は、今年の4月から法人の施設での栄養士の献立で食材が届くようになった。利用者が高齢ともなり少しでもケアに力を入れる方針である。しかし、食の楽しみに繋がるように畑で採れた野菜と一緒に採りに行き、味付けは利用者の好みで変える。他施設の見学をし清潔面からお盆、器の変更もした。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。 脱水を避ける為、3食時、おやつ時(10時、15時に)水分量を記帳するようにして、個々の水分量を確保し注意をはらっている。栄養バランスについては定期的に管理栄養士に点検を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔ケアをしている。 義歯がほとんどですので寝る前に全員口腔ケアを実施している。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>支援を行っている。 入所時、排泄の形態を理解して立ち上がり、促まる事が容易ではない利用者は下肢筋力、上肢筋力をつける生活リハを行っている。排泄時間を把握して施行している。</p>	<p>排泄は、利用者の排泄パターンや排せつの形態を理解し、自分で行う支援を行う。尿意があっても立ち上がりの介助が必要な方やズボン上げ下げの介助が必要な方にもさりげなく支援し自立に向けた支援をしている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>取り組んでいる。 病気によっては飲食物の制限のある方もいらっしゃるので十分注意を払っている。便秘については繊維食品・水分摂取・運動(体操・施設内歩行)に心掛けている。薬は担当医に相談して処方されている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>そった支援をしている。 基本的には週2回であるが一人で入りたい方はそのように希望にそうようにしており、1日の内自分の希望した時間にはいれるようにしている。夏のシャワーについては自由になっている。</p>	<p>入浴は、週2回が基本となっている。自分で入浴したい時間に入浴できるように配慮している。夜間足湯を毎日行いゆっくり休む方の支援を行う。夏はシャワーをいつでも利用できるようにしており、毎日シャワーする人もいる。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>よく眠れるように支援している。 利用者それぞれの生活パターンがあることを職員がよく理解しており、休みたい時などは自室かホールでソファーが用意されており、又、眠れないような時は利用者の傾聴に心掛けている。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>確認に努めている。 症状の変化が現れた時はすみやかに主治医に相談、診察を施行して貰い、効能、効果を逐次報告して、経過をみて、指示をあおいでいる。服薬は職員が管理している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している。 それぞれ能力に応じて食材加工したり、お茶くみ食器洗い、洗濯整理、嗜好食については食堂、回転寿司に出掛けそれぞれの好みの食事を取っている。もちろん気分転換も含めてである。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援している。 年間行事計画に添って、地域の歌舞伎見学、小学校の音楽会、運動会、犬・猫運動施設と食事は一般食堂、回転寿司に気分転換を含め外出の機会を設け、又、玄関のテラスを充分利用して、お茶等に活用している。	日常的な外出支援として、春先になり二つのユニットの交流をしながら歌を歌うなどの屋外交流がある。テラスでお茶を飲み少しでも屋外の空気に触れる工夫をしている。バスで年2回くらい全員ででかけ、つつじを見に行き外食をしている。地域の行事の参加もあり、外出が楽しみである。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。 それぞれの利用者の状況に応じて、家族との話し合いで僅かな所持金を預かり、本人の希望・要望に添って対応している。時には買い物も同伴することもある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援をしている。 利用者が家族・知人・関係者に連絡したい時、電話での要望が多いが職員も直に対応している。不在の時は夜勤者が便宜を図っている。手紙の場合は近くの郵便局に差し込んでいる。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫をしている。 季節感については塗り絵、季節ごとに外出をしたりしてその場所、経過を写真に収め利用者が見ることが出来る場所に掲載している。テラスにも出て、お茶・コーヒー等をたしなんでいる	居間周りに居室があり、ラジオ体操の後は、廊下に手すりがめぐらされ、歩行訓練をする習慣ができています。暖かい日はテラスでゆっくり過ごします。廊下には1年間楽しんだ証として写真が飾られています。いつも過ごす居間はいつでも話ができる空間で安心感がある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している。 ホール・居間では気のあった仲間同士で本読み・しりとり・かるたとり・数字合わせ、皆では歌を歌ったり、卓上ビーチボウルを転がしたりしている。1人で読書する本も手配している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。 生きてきた生活暦・生育暦を考慮してなじみの衣類・洗面道具・生活品類・タンス、又、仏様も居室に持参して安置されており、心の秩序がたもたれ平和を確保している。	居室には、お仏壇を持参し使いやすい家具の配置を行い生活している。本が好きでいつも本をゆっくり読める環境、夜間、電気を横になっていても消すことができるように工夫する等、家族が利用者の事を考え住みやすく過ごせる工夫をしている。心地良く過ごしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。 利用者各々がこの施設での生活が容易に安心して暮らせるように居室の配置、ドアにも工夫を心掛けている。回廊には障害となるものは排除して、安全性を確保している。字句、絵も配慮している。		



自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>実践につなげている。</p> <p>新入職員には必ずカンファレンスの中で地域密着型サービスの意義、特性、理念を説明して理解を深めている。月2回のGH会議、カンファレンスの中でも基本方針等確認をしている。</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>日常的に交流している。</p> <p>地域においては区民となり、地域の行事に招待される、区民による歌舞伎・小学校の音楽会・運動会・幼稚園からの出張おみこし・ボランティアによる餅つき、お正月の獅子舞等の参加・交流を図っている。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>活かしている。</p> <p>区の区長・民生委員・等に運営に関して会議を開催して、現状報告・問題点など提起して互いに意見交換をして、支援などして頂いている。区民の隣組の方が抵抗なく訪ねてくれる。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>活かしている。(消防署・警察了解された)</p> <p>運営推進会議は行政(福祉課・地域包括センター)・区長・民生委員・家族等の参加の中で会議を開催して現状分析・課題など報告して適切なアドバイスを頂き実践に活かしている。</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>協力関係を築くように取り組んでいる。</p> <p>申請書についても郵送に頼らず窓口にいき、コミュニケーションを図り、又、包括支援センターから利用者の相談を受け、支援の方法を模索し可能な限り、対応している。(入所、通所等)</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。 ある病院で車椅子に拘束されていた利用者を目が離せないとの理由で当施設でその利用者の入所受け入れをした、利用者の尊厳を大切にしておき、入所日より身体拘束をしないようにした。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止に努めている。 肉体的虐待には週2回の入浴において隅々まで点検して、言語的虐待については日常職員が各々が利用者の尊厳を理解しており、そのようなことはない。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用できるよう支援している。 この地域は社協が窓口となっており、独居のお年寄りが将来財産上の問題が浮上、予想される場合には相談をしており、又、本人が希望した場合などは会計士などにも関わってもらっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解・納得を図っている。 入所時・解約・改定等については十分説明をして、特に金銭的なことについてはトラブルを回避するため、利用者家族から承諾書を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に反映させている。 1に運営推進会議に利用者家族の参加、2に家族参加による夏祭り・収穫祭を開催して職員・家族同士の話し合いの場を設けている。その中で家族の意見をくみ上げている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	反映させている。 代表者は月1回全体会議を開催し、職場での要望・運営に関してはその都度理事長との交換ノートで連絡して検討したり、承諾を求めている。職場のカンファレンスは月、2回開催し必要時はその都度開催する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<b>就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。 評価表(自己評価・チーフ評価)を年2回実施しており、給与・賞与に反映し、労働条件については職場環境・個人の休暇の希望を取り入れ職員の要望に応えている。		
13		<b>職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	トレーニングしていくことを進めている。 施設内のチームケアの中の利用者カンファレンスの中で個人の介護ケアを把握し、今年度は認知症介護実践研修に2名参加、管理者研修に1名参加して伝達講習をカンファレンスの中で実施した。		
14		<b>同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組みをしている。 市内介護事業者が10/29事業所視察研修に30名余来所され、GHの入所・通所の基準・利用者状況等説明して、会議を通じて理解を深めていただいた。又地域のケアマネジャーが来所して利便を図っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めている。 家族・本人から可能な限り、今までの生活歴・生育歴等を表出し、要望に添うようケアに活かし、施設で楽しく、穏やかに生活できる基礎資料を確保している。マニュアルに添って要望項目ごとに整理している。		
16		<b>初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関係づくりに努めている。 入所される前にこの施設に利用者本人・家族等に来所して頂き時には昼食を召し上がっていただき、施設の特質・環境・なじみ等を経験する機会を設けている。上記のマニュアルで家族の困っている問題を表出している。		
17		<b>初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。 上記のマニュアルにて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	関係を築いている。 職員と利用者本人はそれぞれのADLに応じて素材作り・お茶配り・配膳・食器洗い物・洗濯者の仕分け・たたみ等一緒に行っており、和やかな関係をきずいている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係を築いている。 家族に施設の生活を写真アルバムにして近況も身体的・健康面・生活面、に分けて文章にて郵送を年2回現況をお知らせ、又、家族の参加するイベントを年2回実施して家族・本人・職員の交流の場としている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援に努めている。 なじみの人・家族等が何時、施設に来ても365日受け入れをしている。命日には家人が連れにきている。親戚・家族・兄弟も施設に訪れ懇親を深めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者に同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支援に努めている。 歌唱指導のボランティアが来たりした時は利用者全員が参加するように声掛けをしている。又、レクなどは利用者全員が楽しく出来るような種目を選んで(卓上ボウル遊び)楽しんでいる。脳トレも全員参加。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援に努めている。 退所してもこの施設に寄って、今やりのある歌のレッスンをしているとか、どのような方法がよいかなど、相談を受けたりして、経過を見守って支援に努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。 入所時に家族・本人の希望・要望をお聴きして、記録表に記入している。又、嫌な事(困った事、嫌いな食べ物、身体的な事、不得意な事、生きてきて嫌な事)等も把握して本人の納得性に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。 一人ひとりの生活歴やなじみの暮らし方は同上 これまでのサービス利用の経過は在宅からの場合はケアマネに施設に訪問してもらい、他院だと直接看護師との申し送り、サマリー等で把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。 一人ひとりの業務日誌、日課記録表、経過記録表、により現状の把握をしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成せている。 本人・家族からは入所時希望・要望・その他をきいてプランに反映し、夜勤者・担当者から、利用者の課題を報告してもらい、GH会議において皆で解決策の方向性を見出している、早急な課題はその都度勤務者で会議をしている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。 NO25に同じ。 更に徹底するため、申し送りノートに必要事項を記入して情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。 家族・利用者様の相談に応じ、要望、要求に対応するように時には医療と相談して専門標榜科の紹介手続きを申請したり、利用者が外での食事要求に応じたりしている。又、料理にもおやきなど工夫している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。 利用者が作った「エコたわし」を近くの小学校・保育園に職員と一緒に配布して喜ばれ、利用者の励みにもなっていて、子供達が訪ねて来たり、運動会・音楽会等招待され交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>支援している。</p> <p>主治医の受診は診療所で敷地内にあり容易に診てもらえる。定期以外の臨時の受診は家族に容態・状況を説明して納得を得られている。受診表を提出して即対応されている。他医院の受診もある。</p>		
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>支援している。</p> <p>本人の訴え、職員が気づいた医療上の状態を看護師、訪問看護師と連携をとり、医師のオーダーの下で点滴・処置を施行している。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>関係づくりを行っている。</p> <p>病院に入院した際にはサマリーにてこちらの情報を提供して、入院中においてはこちらから病院に訪問して医療スタッフと退院プランを話し合い早期に退院できるよう相談をしている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>取り組んでいる。</p> <p>入所時に急変した場合、重度化した場合この施設で可能な医療、介護等の内容を十分説明して理解を得ている。他院に移る場合などは家族・本人に希望を聞き、家族が選んで頂くようにしている。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>実践力を身に付けている。</p> <p>入所時に利用者の疾患を全ての職員が性質、特徴、経過等を理解するようにして、カンファレンスにおいても特に気をつける疾患(循環器、嚔下注意)、蘇生方法等を話し合い実践力を高めている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>協力体制を築いている。</p> <p>スプリンクラー、火災通報装置(消防署へ直通)が設置されており、防災訓練を5/24、7/26、年2回行っており、区の役員、区の消防団も参加している。消防署との通報も確認した。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応をしている。 入所時に利用者本人の成育歴・生活歴・人格・誇りを家族・本人より聞き取るマニュアルがあり、それを基本に日々介護に接している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。 いくつかかのイベント・ボランティアの訪問・地域の行事にも本人の意思により、参加させている。又食事に関しても外にお連れして本人の好きな食べ物を選択して食堂・回転すしで昼食を召し上がっている。計8回		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望にそって支援している。 体操1日4回・施設内歩行訓練3回、本人のペースに合わせた時間をとっている。食事の摂取時間についても本人のペースに合わせてゆったりとした時間配分を設けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。 家族から着替え、衣服(下着も含む)等お預かりしているので週2回、入浴後本人と相談しながら更衣をしている。3ヶ月に1度美容師が訪問して利用者の要望に応えている。季節ごとに更衣を促がしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。それぞれの能力に応じて役割分担して食材を準備する方、お茶を配る方、食後食器を集める方、食器を拭く方等それぞれ創意工夫して和やかにやっている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。 脱水を避ける為、3食時、おやつ時(10時、15時に)水分量を記帳するようにして、個々の水分量を確保し注意をはらっている。栄養バランスについては定期的に管理栄養士に点検を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔ケアをしている。 義歯がほとんどでするので寝る前に全員口腔ケアを実施している。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>支援を行っている。 入所時、排泄の形態を理解して立ち上がり、捉まる事が容易ではない利用者は下肢筋力、上肢筋力をつける生活リハを行っている。排泄時間を把握して施行している。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>取り組んでいる。 病気によっては飲食物の制限のある方もいらっしゃる所以十分注意を払っている。便秘については繊維食品・水分摂取・運動(体操・施設内歩行)に心掛けている。薬は担当医に相談して処方されている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>そった支援をしている。 基本的には週2回であるが一人で入りたい方はそのように希望にそうようにしており、1日内自分の希望した時間にはいれるようにしている。夏のシャワーについては自由になっている。</p>		
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>よく眠れるように支援している。 利用者それぞれの生活パターンがあることを職員がよく理解しており、休みたい時などは自室かホールでソファが用意されており、又、眠れないような時は利用者の傾聴に心掛けている。</p>		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確認に努めている。 症状の変化が現れた時はすみやかに主治医に相談、診察を施行して貰い、効能、効果を逐次報告して、経過をみて、指示をあおいでいる。 服薬は職員が管理している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している。 それぞれ能力に応じて食材加工したり、お茶くみ食器洗い、洗濯整理、嗜好食については食堂、回転寿司に出掛けそれぞれの好みの食事を取っている。もちろん気分転換も含めてである。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援している。 年間行事計画に添って、地域の歌舞伎見学、小学校の音楽会、運動会、犬・猫運動施設と食事は一般食堂、回転寿司に気分転換を含め外出の機会を設け、又、玄関のテラスを充分利用して、お茶等に活用している。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。 それぞれの利用者の状況に応じて、家族との話し合いで僅かな所持金を預かり、本人の希望・要望に添って対応している。時には買い物も同伴することもある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援をしている。 利用者が家族・知人・関係者に連絡したい時、電話での要望が多いが職員も直に対応している。不在の時は夜勤者が便宜を図っている。手紙の場合は近くの郵便局に差し込んでいる。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫をしている。 季節感については塗り絵、季節ごとに外出をしたりしてその場所、経過を写真に収め利用者が見ることが出来る場所に掲載している。テラスにも出て、お茶・コーヒー等をたしなんでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している。 ホール・居間では気のあった仲間同士で本読み・しりとり・かるたとり・数字合わせ、皆では歌を歌ったり、卓上ビーチボウルを転がしたりしている。1人で読書する本も手配している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。 生きてきた生活暦・生育暦を考慮してなじみの衣類・洗面道具・生活品類・タンス、又、仏様も居室に持参して安置されており、心の秩序がたもたれ平和を確保している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。 利用者各々がこの施設での生活が容易に安心して暮らせるように居室の配置、ドアにも工夫を心掛けている。回廊には障害となるものは排除して、安全性を確保している。字句、絵も配慮している。		

## 目標達成計画

作成日: 平成25年3月21日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議が、年2回開催の現在、取り組みや話し合い、意見が活かされていない。	2ヵ月に一回の運営推進会議を目指し、サービス向上に繋げる。	年2回の運営推進会議と家族交流会のイベントを合わせ、自然な形で楽しんでいただきながら、現状を見ていただく機会を運営推進会議に取り入れる。	12ヶ月
2	26	本人の思いや意向が、施設側と家族との間に温度差がある。	家族と密に報告・連絡・相談をし思いを共有し、理解していただく。	・家族の意見を取り入れる。 ・家族便りを出し、細やかなコミュニケーションを取り信頼関係を強くする。 ・課題を見つける為のアセスメントをきちんとする。 ・モニタリングを工夫しケアプランを見直しをする。	12ヶ月
3	35	災害時に、高齢化、レベル落ちの利用者様を安全に避難することについて。	災害・事故から安全に利用者様を守る。	・地域協定とシステム作りの見直し。 ・外の空気を吸い歩いてもらう等、体力作りの支援をする。 ・職員の日頃の自覚と施設内外の危険地チェック体制を強化する。	12ヶ月
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。